

# ■鶴嶺東地区「防災“も”まちづくり研究所」設立！

今年度のワークショップでは、中学生のみなさんと大人の方が一緒にになって考えるための組織として、東京大学加藤研究室附属「鶴嶺東地区防災“も”まちづくり研究所」を設立しました。参加者のみなさんは、4つの研究室に分かれて、各テーマに沿ってアイデアを出していただきます。今回は認定式を行い、参加者のみなさんに研究員としての任命書が所長の加藤先生から手渡されました。



研究員に授与された「任命書」

## <4つの研究室のテーマ>



## ■参加者の声

※アンケートでいただいた主なご意見です。

- 今日は色々なことを学べて楽しかったです。「自助」「共助」「公助」の役割についてや、防災への取り組みを考え直そうと思います。
- 自分達が長く住んでいて安全だと思い込んでいた場所にも、ハザードマップや資料を見てみると危険な場所が沢山あって驚きました。
- 自分達が体験したことのない震災を知って「22年前にこんな地震が起きたのか」と思い、自分の知らないことは沢山あるなと思いました。
- 鶴嶺東地区周辺には老人ホーム等が沢山あるので、その人達の安全をどう守っていくかを話し合ってみたい。
- 最近、公園や農地が減ってきてるので、皆が安心して避難できる公園等を増やすことについて、話し合いたいです。
- 矢畠は大雨が降ると洪水になってしまうので、その呼びかけをしたい。



## ■ワークショップの今後の予定 まだ参加されていない方のご参加も、お待ちしております！

回数	日付	時間	概要
第1回 (終了)	平成29年 10月29日	9:00~ 12:00 (180分)	防災“も”まちづくりについて学び、考えよう ・ 加藤先生からの講演／鶴嶺東地区的市街地状況／地域の活動 ・ 鶴嶺東地区防災“も”まちづくり研究所の設立式
第2回	平成29年 12月2日	9:00~ 12:30 (210分)	防災“も”まちづくりの視点で鶴嶺東地区を見てみよう！ ・ 体験学習 ・ 防災“も”まち歩き／まち歩きマップをつくろう
第3回	平成30年 1月28日	9:30~ 12:00 (150分)	「防災“も”まちづくり」のアクションプログラムを考えよう！ ・ 地区の良いところ・悪いところと地域資源を考える ・ アクションプログラム／キックオフイベントの検討
第4回	平成30年 2月24日	9:30~ 12:00 (150分)	防災“も”まちづくり「キックオフイベント」を考えよう！ ・ キックオフイベントの企画案の作成 ・ アクションプログラムに沿った活動の継続方法の検討

自助（個人）・共助（地域）の視点から防災まちづくりについて考えてみませんか？

## 鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」ニュース

Vol.1



### 「防災“も”まちづくりワークショップ」 (全4回開催予定)スタート！

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」（昨年度から「防災“も”まちづくりワークショップ」に改称）を実施し、地域のみなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、鶴嶺東地区のみなさんと一緒に、全4回のワークショップを実施してまいります。ワークショップでは、鶴嶺中学校の生徒の方々に多く参加していただき、鶴嶺東地区的まちづくりについて考えます。

1回目の今回は、「防災“も”まちづくり」の基本的な考え方や、大規模災害時に市街地でどのようなことが起こるのかについて、レクチャーと映像で学びました。

#### ～第1回 鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」で行ったこと～

##### «はじめに»

あいさつ 鶴嶺東地区まちぢから協議会  
下町屋自治会 松本会長

##### プログラムの説明

茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

##### «レクチャー①»

「地域から進める防災“も”まちづくり」  
講演 東京大学 生産技術研究所  
加藤 孝明 准教授

##### «鶴嶺東地区 防災“も”まちづくり研究所の設立式»

##### «閉会»

次回予告

※悪天候のため、一部プログラムを変更して実施しました。

## ■鶴嶺東地区まちぢから協議会 下町屋自治会 松本会長のごあいさつ



鶴嶺東地区まちぢから協議会  
下町屋自治会 松本会長

本日のワークショップに、大勢の中学生に参加していただけて心強く思います。大地震は、みなさんのお父さんやお母さんが外出している瞬間に起こることもあります。いざという時には、このワークショップを通じて知見を深めたみなさんが大きな力になってくれると思います。

今回のワークショップで出たアイデアは、最終的に各自治会で実行していくことになります。中学生のみなさんと協力して、良いアイデアを出していけばと思います。

# ■ 地域からすすめる防災“も”まちづくり（加藤先生からの講演）

東京大学 加藤先生よりご講演いただき、地域からすすめる「防災“も”まちづくり」の基本的な考え方や、迫り来る首都直下地震の被害想定などについてお話しいただきました。

## ■ 「防災“も”まちづくり」の理念 ～うまくすすめていくための5つのキーワード～



- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ①「総合性」        | 防災と、それ以外の地域課題をセットで進める。  |
| ②「内発性」        | 自分たちが「やるべき」と考えて取り組む。    |
| ③「自律発展性」      | 取組んでいくうちに、内容がさらに進化していく。 |
| ④「多様性」        | より幅広い世代や、様々な立場の人参加する。   |
| ⑤「市民先行・行政後追い」 | 元気な市民が先導して新しい世の中を作っていく。 |

## ■ 防災の基本



### 災害イメージを正しく理解する

過去の災害事例は参考にしつつも、今の時代、自分たちの地域に即した対策を「自分たちで考える」必要があります。

### 自助・共助・公助のあるべき姿の実現

起こりうる被災状況と互いの役割を事前に理解、共有することで、いま取り組むべき課題が明確になるので、「内発性」、「自立発展性」が生まれ、持続的な自助・共助につながります。

**防災“だけ”ではなく、その他の地域課題（福祉、景観…等）も含めて、総合的に考えていく防災“も”という視点が大切です。**

## ■ 首都直下地震の切迫性、被害想定について

過去の歴史から考えると、首都地域での関東大震災クラス（マグニチュード8）の発生周期は200～300年なので、当分の間は起こらないように思えます。しかし、阪神・淡路大震災クラス（マグニチュード7）の地震は、もっと短い周期で発生しているのです。また、一口に首都圏と言っても広く、具体的な震源地がどこになるのかまではわかつていません。

私たちは、いつ起ころともおかしくないこのM7クラスの首都直下地震を想定して、備えていかなければなりません。



### ■ 偶然×偶然×偶然…二次災害の危険性について

地震発生時に、二次災害の出火を完全に防ぐことは困難です。大きく揺れたり、物が落ちてぶつかったりする中で、普通は起こらないと思うような偶然が重なり、それが出火の原因につながることは決して珍しくありません。そのために、事前に備えられること（家具固定の促進、消火器の設置など）は、今から個人や地域で取り組んでいきましょう。

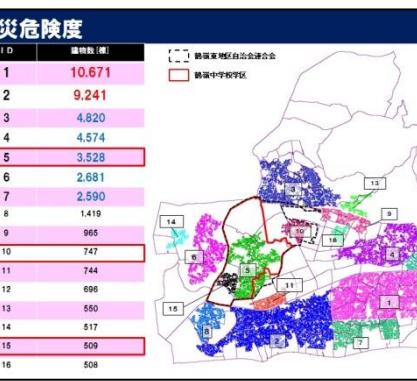
#### ～加藤先生の略歴～

- ・東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター 准教授
- ・専門分野は、都市計画、まちづくり、地域安全システム学
- 『主な社会活動』
  - ・地域安全学会：理事／自治体危機管理学会：理事／地区防災計画学会：理事／災害復興学会：理事、日本都市計画家協会：理事・震災復興支援タスクフォース
  - ・都市計画学会：東日本大震災復興支援特別研究委員会防災部会委員（-2014）／日本建築学会：地域防災・復興小委員会主査（-2014），広域巨大災害に備える特別委員会（-2015），他多数
  - ・内閣官房：都市再生の推進に係る有識者ボード防災ワーキング
  - ・東京都、川崎市、神奈川県、名古屋市他 自治体の委員会等 他多数



## ■ 鶴嶺東地区の市街地状況について（茅ヶ崎市 都市部 都市政課）

鶴嶺東地区について、土地利用や道路の幅などの特徴、火災や建物倒壊、道路の閉塞など、災害時の危険性について学びました。



休憩時間も  
「天サイ！  
まなぶくん  
茅ヶ崎版」  
で地域の状  
況を確認！

## ■ 地域の活動紹介（鶴嶺東地区まちぢから協議会 小室会長）

### 鶴嶺東地区のまちの変遷

私たちの先祖が鶴嶺東地区に住み始めたのは約500年前。当時はほとんど農家で全面が田んぼ、畠でした。それから、住まいや工場などができる、現在のまちになりました。鶴嶺東地区には九つの自治会があり、地域によって、大型マンションがあったり、一戸建てが多かったり、あるいは田んぼ、畠がずっと広がっているなど、土地活用・宅地状況に多様性があります。

### 「安否確認」を重視した防災訓練を実施

市でも奨励されている「安否確認」を中心に防災訓練に取り組んでいます。まずは安否を確認し、命を助けるということが大事で、その後、宅地が倒壊してきたら避難所に行く、怪我をしていたら医療機関に行く、という順番だと考えています。

### まずは「自助」「共助」で速やかに安否確認

安否確認は、近隣の住民同士で声を掛けながら避難します。班長は安否状況を取りまとめて、組長を通して対策本部に伝えます。訓練の結果、地震発生から30分～1時間の間に安否情報が集約できることが確認できました。

### 正しい情報を伝えて「公助」に助けを求める

「自助」、「共助」の役割として、住民の安否やライフラインの状況を一覧表にまとめることによって、市の防災対策や避難所に正確な情報を速やかに伝え、「公助」に助けを求める、という仕組みをつくっています。

## ■ 【体験学習】映像で語りつぐ阪神・淡路大震災～失われたあの時あの場所～（DVD視聴）

中学生がまだ生まれていなかった22年前に発生した「阪神・淡路大震災」の記録映像を視聴しました。地震発生時の大きく揺れている様子や、道路、建物が倒壊した市街地の状況などを見て、大規模災害で、街がどのような状態になったのか知ることができました。



### ■ 加藤先生のコメント

現在は、22年前と比べて耐震補強等の対策が進んでいますが、その一方で生活スタイルはそれほど変わっていないという面もあります。その他にも、地域特性や気候など、諸条件により被害状況は異なってきます。このワークショップで、現在の鶴嶺東地区で災害が起きた時にはどのような状況になりそうか、自分たちに何ができるか、考えていきます。

※体験学習として予定していた「火災体験」と「ブロック塀倒壊体験」は、悪天候のため、第2回に延期しました。